

基礎プログラミング I 感想

C108148A 多田友香

プログラミングが何をするかわからず、1 回目の授業を受けた。授業についていくのがやっとで、内容はほとんど理解することができなかった。これから先の授業がどうなるのかとても不安だった。出席してもついていくのがやっとだったので、まず遅刻することなく出席してレポート課題のためにメモを取ろうと思った。

授業ではレポートのためにメモを取る必要があるが、メモを取っていると授業についていくことができず、結局説明もメモも中途半端になってしまうことが多くあった。回数を重ねるごとに、少しずつではあるが、ついていけるようになりつつある。

初は何をすればよいかわからず、最近は思った通りにならないため、毎回の課題レポートは何日もかかり、夜遅くまで残るのは当たり前になっている。最初頃は、プログラムが実行できないと自分が何しようとしているのかわかっていなかった。しかし、今はどのようなプログラムを作るのか考えて作成することができるようになり、変更するところが少しだがわかってきた。十数時間もかけてプログラムを作成してもわからないところがあったり、思い通りにならないところがあり悔しい思いをした。できたと思って実行しても Kterm にエラーメッセージが表示されることが多くあった。最初頃は実行できるか、できないかだけでしかメッセージを見ていなかった。しかし最近は内容を確認するようになり、以前よりはやくプログラムの問題点を見つけられるようになったと思う。プログラムの説明や考察は、最初頃は何かを書けばよいのかわからなかった。今は後から見かえしたときにわかるようなレポートを心掛けるようになった。そのことによりレポートを見かえすことで前回まで学んだことを今回のプログラムに生かせるようになってきたと思う。

前期は頑張ったレポートの評価が想像以上に低かった。後期のプログラミング II では、そのようなことがないようミスのないように作成し、良い評価をもらえるようなレポートを目指したい。また、皆と同じように進み遅れることなく授業についていきたい。メモもしっかり取り、少しでも授業内容を理解し自分で工夫したものをつくれるようにしていきたい。